

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・広い床面積と個室を活動内容に応じて有効活用している。 ・目的活動ごとに部屋を分けている。 ・おやつや学習などの着席時に、場所の混乱が起きないように視覚的に提示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員10名に対して、施設の総面積が100㎡であるため基準を満たしている。 ・死角になる場所もあるので、スタッフで共通認識する。
	2	職員の配置数は適切であるか	✓		支援の質と安全のため、原則として職員1名に対して利用者1～2名で対応している（国の基準は利用者5名）。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・室内に段差が生じない様、内装に配慮している。 ・2階に事業所があるため、階段の昇降時は手すりを持ち、職員が付くようにしている。また、必要に応じて男性職員が対応し、安全に配慮し転倒防止に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある環境の中で、子ども達の安全面に気を付け、危険箇所の全体周知をしっかりとる。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・支援前の打ち合わせ、支援後のフィードバック、連絡ノートの活用、全員参加型の毎日の朝礼を行い、業務改善に取り組んでいる。また、計画立案時に適宜他のスタッフへの聞き取りを行っている。 ・月に1回支援会議を開催し、支援の見直しを行っている。 ・作業的な内容は業務マニュアルを作成し、誰もが分かりやすく取り組めるようにしている。 	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	✓		保護者アンケートを毎年1回実施し、回答を基に事業所で話し合い業務改善に繋げている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策を考慮し、クッキングのメニュー内容や調理法等を考え、プログラムを中止せずに済むよう工夫する。 ・コロナの感染者数の他に、熱中症対策等にも考慮し、外出場所や時期を考慮してプログラムを組み込んだ。 ・コロナ渦でも利用できる外出先や、プログラム内容を新たに探していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	✓		事業所のホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	✓		外部からの見学者を受け入れている。	実地指導の助言を基に、業務改善に繋げる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修受講実現の為、シフトの調整を行っている。 ・外部研修に加え、資質向上研修を社内で行い、定期的に知識、質の向上に取り組んでいる。研修後は、レポートを作成し、他のスタッフに伝達を行っている。 ・月に1度資質向上研修を全職員を対象に実施している。 	人材育成プログラムを作成し、新入社員に対して必要な知識を入れる機会を設けた。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・NCプログラムやデンバー、Vineland II等のフォーマルアセスメントツールを使用すると共に、ニーズとデマンドを分析したうえで、個別支援計画を作成している。 ・身体機能訓練においては、OT指導の下、支援計画を立案している。 	
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	✓		Vineland IIを活用し、適応行動尺度の評価を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のユニット会議において、スタッフ間で意見交換を行っている。 ・コロナ渦でも実施できるプログラム内容を検討し実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム内容のバリエーションを増やしていく。 ・コロナ禍でも実施できるクッキングの内容について検討し、実施している。 ・コロナ感染緩和による、外出先の候補を増やしたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・制作を1回で終わらせる内容ではなく、長期制作に変更した。 ・リズム体操のレパートリーを増やした。 ・年間での活動プログラムをユニット会議で立案し、月毎に振り分けるようにした。 	今後もプログラムが固定化しないよう、ユニット会議等で検討し、新たなプログラムも取り入れていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・利用時間に合わせて課題の量や内容を調整している。 ・学習だけでなく、OT指導の下、体幹トレーニングや筋トレ、口腔機能訓練も実施している。 	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の発達段階に応じた社会性・学習・運動機能の向上を目指し、個別活動と集団活動を毎回組み合わせ実施している。 ・NCプログラムやデンバー、Vineland II等の発達段階を参考に、1人1人に合った支援計画を作成している。 	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝礼で、利用者の情報の共有を行う。 ・毎日支援前に職員間で打ち合わせを行い、内容を記録し、後日振り返りができるようにしている。 ・短時間支援を担当するパートタイムのスタッフにも、支援内容を簡潔にまとめたツールを作成して確実に伝達を行っている。 ・外出プログラムやクッキングの際には、事前に職員の話し合いの場を設け、普段以上に、怪我や事故のリスク対策に留意するよう情報を共有している。 	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせの際には、前回の反省点や良かった点も踏まえて検討している。 ・打ち合わせを基にしたフィードバックを行っている。 ・公休の翌日は、朝礼ノートの確認や職員間での伝達を行い、情報共有している。 	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	✓		支援計画とプロンプトや内容がリンクする形のケース記録を作成し、支援の検証・改善がしやすくなっている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	✓		課題を中心に、発達段階に応じて出来るものを増やせるよう新たなものに取り組んでいる。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	✓		毎年4月に資質向上研修にて総則の確認を行い、ガイドラインに則って支援を行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者、または対象の利用者に最も精通した担当者がサービス担当者会議に参画している。 ・直接の会議の機会は減ったが、文書やリモート会議にて担当者会議に参画している。 	
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・交通事情等により迎え時間が遅れそうな場合は、連絡するようにしている。 ・必要に応じて、お迎え時に学習進度や生活面に関する情報共有を行っている。 		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		✓		医療的ケアが必要な利用者がいない為、現在は行っていないが、必要になれば連絡体制を整えていく。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	✓		先方からの引き継ぎシートを活用している。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	✓		学校卒業だけでなく、転居の際にもサポートブックを作成し、情報を提供している。	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	✓		・ゆうゆうセンターが開催する研修に参加している。 ・児童相談所との連携を行っている。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		✓		コロナの感染者数が落ち着いている時期には、地域の色々な公園に行き、近所の子ども達と関わる機会を増やしていく。
	27 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか		✓	左記機関とのやり取りは多いので、引き続き連携していく。	・会議への参加要望があれば積極的に参加していきたい。 ・事業所間の連携を目的としたネットワーク会議(11月中旬)への参加依頼があったため、参加。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	✓		・事業所内、家庭内で行う訓練、困り感や成長などについて情報共有を行っている。 ・必要に応じて、送迎時・電話で、その日の状況や対応について伝えている。 ・モニタリング面談時に、家や事業所での情報をお互いに提供し、共通理解を持てるようにしている。	支援計画に家庭連携支援、事業所内相談支援を追加し、必要に応じて実施出来るようにした。
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	✓		・保護者の要望や相談に合わせて、ペアレントトレーニングや構造化、ABA等の理論に基づいた助言を行い、支援に関する資料を渡している。 ・必要な利用児に対して、家庭と事業所を連携できるようなノートを使用している。 ・資質向上研修とおやこっしー(保護者の勉強会)を同時開催とし、ペアレントトレーニングや構造化、防災対策等について、Zoomにて保護者向けにも行った。		
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	✓		代表者が説明を行い、問い合わせがあった場合は、管理者、担当者が説明を行っている。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	✓		モニタリング面談に加え、子どもについての悩みなどの相談があった場合には、解決方法を提示し、共に模索している。	・必要に応じて、家庭連携支援、事業所内相談支援を実施していきたい。 ・代替サービス等の聞き取りを通じて、悩みや相談に応じていきたい。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		✓		リモートオンラインでの保護者会を実施する。
33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	✓		すぐに代表者へ報告し、適切に対応している。また、職員間で共有し改善している。	苦情があった際には速やかに職員間で共有し、必要に応じてフローチャートなどの仕組みづくりを行った。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の利用希望表に活動内容やプログラムを記載し事前に発信している。 ・不定期ではあるがFacebookにて情報を発信している。 	
	35 個人情報に十分注意しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・写真を送ったり掲載したりする際は、個人情報が入っていないか確認を行っている。 ・クラウドサービスを利用する際は、個人が特定されない表記とするよう徹底している。 ・個人情報がある書類は、鍵付きキャビネットにて保管し、処分する場合は必ずシュレッダーにかけている。 	メールを送信する際は、送信前に再度、アドレスと名前、添付データに間違いがないかを確認して送信を行うようにする。
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に合わせた絵カードや写真カードを作成し、意志の伝達が出来るようにしている。 ・保護者と連携をとり、コミュニケーションツールと使い方を、家庭にも提供している。 	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	✓		毎月地域清掃活動を行っている。	コロナ禍による行動制限が緩和されてきたため、例年行っていた地域交流を再開する。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の改訂を行い、職員に周知している。 ・災害時の長期避難に備え、常用する薬の服薬介助申請書提出と常用薬の携帯を依頼している。常用薬は毎年確認を行い、服薬介助申請書と携帯依頼している常用薬の更新を行っている。 ・こども未来局から感染症等の情報が来た場合には、保護者にも周知している。 ・感染症対策については、施設内の清掃、手指消毒、検温、次亜塩素酸による消毒、マスク着用と徹底した対策をとっている。 ・定期的な抗原検査を実施している。 	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理・防災年間計画を立て、避難訓練や計画の見直しを行っている。 ・隔月、地震、火災、水害を想定した利用者も含めた避難訓練を定期的に行っている。 ・年に一度、利用児・職員ともに防災センターでの避難訓練と防災指導を行い、また職員のみでの大規模避難訓練を実施している。 ・避難訓練後はフィードバックを行い、改善点を話し合い今後の対策に生かしている。 ・年に一度、福岡市の防災担当者を招聘し、職員・保護者に対する防災教室を実施している。 	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	✓		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に、身体にいつもと違う状態や怪我が見られた際には、複数人で検証と記録を行っている。 ・虐待防止委員会を設置し、年1回の虐待防止会議と研修を実施し、振り返り等を行っている。 	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		✓		現在、対象となる利用児がいないが、万が一やむを得ず身体拘束を行う場合は、切迫性、非代替性、一時性の3つの要件が満たされている事を必ず確認するよう、職員への周知徹底を行う。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	✓		アレルギーのある利用者にはおやつ対応届提出を依頼し、それに基づいておやつを提供している。また、お弁当など購入する際も保護者に確認している。	
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	✓		ヒヤリハットノートを作成し、職員全員が毎日目を通し活用している。併せて、朝礼にて担当者が改めて共有し、周知徹底するようにしている。		